

# すいかずら

平成17年8月31日発行

編集 社寺建造物美術協議会

発行人 澤野道玄

〒604-8232 京都市中京区錦小路通  
油小路東入る空也町491  
(蒔さわの道玄 内)

TEL (075)254-3885 FAX (075)254-3886

## 『第十六回』

# 通常総会及び研修会開催

### (京都府京都市にて)

平成十六年十月三十日に第十六回、研修会を含む通常総会を開くに当り、会場を京都市内に定めました。この度の研修会は催し物に便乗する形となりましたが、文化財保存技術「匠(たくみ)の技」展が京都市内で開かれ、ワールドワークとして、世界文化遺産登録の元離宮「二条城」の国宝、二の丸御殿が選ばれて、当協議会の森本安之助副会長が、国の選定保存技術認定保持者であり、実技と講演を京都市東山区にある、京都市文化財建造物保存技術研修センターで行った後に、「二条城」で金工部門の研修会をかねて、桃山時代の最高水準の技術を網羅した鍔金具の解説をされる御計

画で私達もそこへ参加することに致しました。京都市文化財保護課、石崎課長、圖越補佐も御担当として、出席されました。今年度の予定としての金工部門の研修が実施できました。

当協議会の来賓として(社)全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫様が来場され、会員からは荒木彩色部会長(川面美術研究所)、澤野道玄(さわの道玄)、酒井清(さかい)、大谷哲泰(大谷鑄造所)、横山哲明(横山金具工房)、小西隆雄・齊藤信二(小西美術工藝社)が出席し、前述の森本安之助副会長(森本鍔金具)を含め、七社の参加となりました。

二の丸御殿は文禄年間

豊臣秀吉が残した遺構と慶長年間に徳川家康が建てた建築の中に徳川家光がつくらせた絵画や彫刻などが抱合された、桃山時代の様式が整えられ、武家書院造りの豪華絢爛を極めた装飾は当代一流の技術を今に伝えているものです。中でも鍔金具の素晴らしさは、長押の花梨斗形(はなのしがた)の釘隠しなど、銅の地金に金張りを施した、すべて手彫りのものです。折上げ格天井、二重折上げ格天井、欄間縁八双、襖

引手など重厚な造りの金具で凝った意匠の逸品揃いです。

この日は土曜日だったためか、他の観客と一緒に見学をする形となりましたが、森本副会長の懇切丁寧な解説で、念入りに研修する事が出来、参加会員からも感謝申し上げます。第一日の恒例の懇親会は「ルビノ京都堀川」へ設営して、賑やかに行なわれました。

翌、十月三十一日に同所の会議室で午前九時から、通常総会が開催されました。まず、先立って(社)全国国宝重要文化財所有者連盟、事務局長の後藤佐雅夫先生から「禅宗方丈の変遷」と題して、有益な講演を拝聴いたしました。日本住宅の歴史という視点で古代の住居から説き起こされ、奈良・平安・鎌倉・室町・桃山・江戸の各時代の建築の特徴と流れについて、資料を用意され、写真・図版など詳細に御教示頂き、

予定時間では、足りない位、充実したお話を頂きました。

小憩の後、総会に入り、会則により小西会長が議長を勤めました。第一号議案の現在収支状況の報告が齋藤事務局員から報告され了承頂いた後、小西会長から退任願が森本副会長宛提出され、受理されました。直ちに第二号議案の役員改選に移り、次期会長選任につき審議いたしました。仲々決定を見るに至らず、副会長などから、小西会長への意見打診があり、私見で恐縮ですが、従来の事業面、活動(文化庁・文技協会への陳情・請願に)熱心な方で当協議会三部門の内二部門を業態としておられる事で、「さわの道玄」会員を推挙したい、と提案が出ました。

